

倫理学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
倫理学特論Ⅰ	ベルクソンの思想	2	村山 達也	前期 金曜日 4講時	
倫理学特論Ⅱ	ほんとうのことばー展開編ー	2	戸島 貴代志	後期 火曜日 2講時	
倫理学特論Ⅲ	コミュニケーションの哲学とコ ミュニケーションの暴力	2	三木 那由他	後期集中 その他 連講	
倫理学総合演習Ⅰ	発表と討論	2	戸島 貴代志	前期 月曜日 5講時	
倫理学総合演習Ⅱ	発表と討論	2	戸島 貴代志	後期 月曜日 5講時	
倫理学研究演習Ⅰ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	前期 水曜日 4講時	
倫理学研究演習Ⅱ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	後期 水曜日 4講時	
倫理学研究演習Ⅲ	愛と道徳(倫理学原典講読・フ ランス語)	2	村山 達也	前期 水曜日 2講時	
倫理学研究演習Ⅳ	人間の生の意味(倫理学原典 講読・フランス語)	2	村山 達也	後期 水曜日 2講時	
倫理学研究演習Ⅴ	幸福をめぐる諸問題	2	村山 達也	前期 金曜日 2講時	
倫理学研究演習Ⅵ	価値認識と決断とをめぐる諸問 題	2	村山 達也	後期 金曜日 2講時	

科目名：倫理学特論 I／Ethics (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：村山 達也

コード：LM15405, **科目ナンバリング：**LIH-PHI619J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**ベルクソンの思想
2. **Course Title (授業題目)：**Introduction to the Thought of Henri Bergson
3. **授業の目的と概要：**ベルクソンの四つの主著（それぞれ自由意志、心身問題、生命論、道徳論と宗教論を扱う）について、基本的な内容を確認したうえで、いくつかの議論を取り上げ、その背景や眼目、論証構造を検討します。
4. **Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**This course introduces the thought of a French philosopher Henri Bergson (1859-1941), covering his four major works, each of which discusses free will, mind-body problem, philosophy of life, and moral philosophy.
5. **学習の到達目標：**(1)ベルクソンの思想の基本的な主張とその根拠や、解釈上の重要な論点を知ることができる。
(2)ベルクソンの思想史上の位置づけを学ぶことができる。
(3)思想史を研究するのに必要なさまざまな方法を学ぶことができる。
6. **Learning Goals(学修の到達目標)：**This course is designed to help students understand the core elements of the thought of Bergson and learn about general methods used in the study of the history of ideas.
7. **授業の内容・方法と進度予定：**
この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

第一回：ベルクソンの思想の概要

第二回：ベルクソンの思想の特徴

第三回：テキスト読解：『直接与件』第一章冒頭部

第四回：『直接与件』における自由論

第五回：質問への回答

第六回：『物質と記憶』が取り組んだ基本的な問題

第七回：『物質と記憶』におけるイマージュ概念とその正当性

第八回：『創造的進化』第一章の概説

第九回：テキスト読解：「可能的なものと現実的なもの」における無の観念の批判

第一〇回：質問への回答

第一一回：『二源泉』とデュアル・プロセス理論

第一二回：価値観の伝播と感情の伝播

第一三回：テキスト読解：『二源泉』第三章（ベルクソンは神の何を証明したのか）

第一四回：質問への回答

第一五回：まとめ

以上はあくまで予定です。上記の目的の範囲内で、具体的な内容は変わる可能性があります。

なお、質問、感想用紙を毎回記入していただき、そこでの質問に答える回を適宜設けます。そうした回の内容や分量も、やはり上記の目的の範囲内で、授業計画全体に影響を及ぼすことになるでしょう。

8. 成績評価方法：

毎回の確認小テスト（60%）と学期末試験（40%）によって評価する。

9. 教科書および参考書：

すべてプリントで配布する。各著作を事前に購入されたい場合には以下のものをお勧めする。

ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』平井靖史訳、ちくま学芸文庫

『物質と記憶』杉山直樹訳、白水社

『創造的進化』松井久訳、ちくま学芸文庫

『道徳と宗教の二源泉』森口美都男訳、中公クラシックス

10. 授業時間外学習：配布するプリントを事前に熟読し、自分なりの分析を試みておくこと（次回読む箇所、分析法などについては授業内で適宜指示する）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理学特論Ⅱ／ Ethics (Advanced Lecture II)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM22206, **科目ナンバリング：**LIH-PHI620J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ほんとうのことば—展開編—

2. Course Title (授業題目)：Breathing True - advanced -

3. 授業の目的と概要： 倫理思想概論での中心内容をより深く展開する。ものは、〈外側から〉眺められ、〈内側から〉生きられる。前者すなわち〈表象する思考〉は対象から距離をとる客観的思考を目指し、後者すなわち〈遂行する思考〉は対象そのものと一つになる主体的思考を目指す。講義では、両者の中庸に本来の現象学的思考が位置することを説明し、倫理学の原点には常にかかる中庸が控えていることを、「外側から捉えることと内側から捉えること」という内容を中心にして解明する。授業は教科書『ほんとうのことば』に沿って、言葉と身体の問題を中心に、リアルタイム・オンラインで行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The basic structure of both ways of thinking — thinking from the outside and thinking from the inside — is explained in this class, and the contents of “grasp from the outside and grasp from the inside” are explained specifically and systematically. The purpose is to get basic understanding of two ways of thinking.

5. 学習の到達目標：広い意味での哲学的思考における最も基本的な二つのものの見方をもとにして、言葉と身体の根源的な関係を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To get the basic understandings of two ways of grasping things

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ものを外側から知ることと内側から知ること①

第2回 ものを外側から知ることと内側から知ること②

第3回 ものを外側から知ることと内側から知ること③

第4回 存在と所有①

第5回 存在と所有②

第6回 思考の枠組み①

第7回 思考の枠組み②

第8回 個と場①

第9回 個と場②

第10回 時間・空間のサイズ①

第11回 時間・空間のサイズ②

第12回 言葉ともの①

第13回 言葉ともの②

第14回 自覚について

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

出席3割、レポート7割

9. 教科書および参考書：

教科書として以下の図書を用いる。

戸島貴代志著『ほんとうのことば』、東北大学出版会、2021年

10. 授業時間外学習：講義内容の復讐を中心に学習する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

オフィスアワーは昼休み

教科書は授業時に用意しておいてください。

科目名：倫理学特論Ⅲ／ Ethics (Advanced Lecture III)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：2 学期集中 **単位数：**2

担当教員：三木 那由他

コード：LM98831, **科目ナンバリング：**LIH-PHI621J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コミュニケーションの哲学とコミュニケーションの暴力

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of Communication and Communicative Violence

3. 授業の目的と概要：本講義では、まず意図基盤意味論という立場が牽引してきた分析哲学的コミュニケーション論の歴史と現状について解説したうえで、この立場に含まれている問題点を指摘し、それを踏まえて私の提唱する共同性基盤意味論という見方を紹介します。さらにそれをもとに、コミュニケーションにおいて生じうる暴力についてフィクションからの例を交えて論じ、ミランダ・フリッカーが論じる「認識的不正義」という現象や、ディレク・アンダーソンが論じる「言語の強奪」といった現象との接点を探ります。それを通して、コミュニケーションを哲学的に分析する際に考えるべき問題や、コミュニケーション論が現実の社会問題とのあいだに持ちうる関連性について見ていってもらえればと考えています。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, I will first explain the history and current state of philosophy of communication in the analytic tradition, which has been led by intention-based semantics, and then point out the problems contained in this framework and introduce the view of jointness-based semantics that I have proposed. Based on this, I will discuss the violence that can occur in communication, using examples from fiction, and look for points of connection with the phenomena of "epistemic injustice" as discussed by Miranda Fricker and "linguistic hijacking" as discussed by Dilek Anderson. Through this, I hope to provide an insight into the issues that need to be considered when analyzing communication philosophically, and the links that communication theory can have with everyday social issues.

5. 学習の到達目標：この講義を通じて、以下の能力を身につけることを目標とします。

(1) 意図基盤意味論の概要と問題点について説明できる

(2) 共同性に着目したコミュニケーション論を、コミュニケーションの分析に利用できる

(3) 「意味の占有」、「認識的不正義」、「言語の強奪」といったコミュニケーションにおいて生じる種々の暴力について説明でき、またこれらの概念を用いて現実の社会事象を記述できる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of the course, participants are expected to

(1) give an overview of and points out problems of intention-based semantics,

(2) use jointness-based semantics to analyze cases of communication, and

(3) explain various types of communicative violence such as appropriation of meaning, epistemic injustice, and linguistic hijacking, and use these concepts to describe everyday social phenomena.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義では以下の 15 回の講義を通じて、コミュニケーションの哲学について、そしてコミュニケーションにおいて生じる暴力について見ていく。

(1) コミュニケーションの哲学的分析は何を説明すべきか？

(2) コミュニケーションの哲学的分析はどのようにおこなったらいいのか？

(3) 「コミュニケーションは話し手の意図の問題だ」と意図基盤意味論は言う

(4) 意図基盤意味論の魅力とは？

(5) 意図基盤意味論にとっての最大の問題

(6) グライス以後の意図基盤意味論者たちの試行錯誤

(7) 意図基盤意味論はなぜこんなにもうまくいかないのか？

(8) 意図基盤意味論とは異なる立場へ

(9) 共同のコミットメントと集合的信念

(10) 共同性基盤意味論

(11) コミュニケーションと話し手の心理

(12) コミュニケーションの回避

(13) 「そんなことを意味するつもりではなかったのに」

(14) 認識的不正義、言語の強奪、その他のコミュニケーションにおける暴力

(15) コミュニケーションにおいて私たちは何をしているのか (まとめ)

8. 成績評価方法：

レポート

9. 教科書および参考書：

資料は適宜配布します。

参考書：

三木那由他 (2019) 『話し手の意味の心理性と公共性』(勁草書房)

三木那由他 (2022) 『グライス 理性の哲学』(勁草書房)

1 0. 授業時間外学習：配布資料を授業の前後にしっかりと読み、わからないことはきちんと質問等してください。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：倫理学総合演習Ⅰ／Ethics (Integration SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM11505, 科目ナンバリング：LIH-PHI622J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目) : Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course offers an opportunity to experience philosophical way of thinking to help students think about issues associated with the true, the good and the beautiful.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students think about philosophical problems for themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面あるいはオンラインで進め、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

1 2. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学総合演習Ⅱ／ Ethics (Integration Seminar II)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM21504, **科目ナンバリング：**LIH-PHI623J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目)：Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to experience philosophical way of thinking to help students think about issues associated with the true, the good and the beautiful.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students think about philosophical problems for themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面あるいは対面およびリアルタイム型オンラインで進め、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。この科目のクラスコードはです。classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習 I / Ethics (Advanced Seminar I)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM13408, **科目ナンバリング：**LIH-PHI624J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：1) ハイデガーの『存在と時間』の「序論」を精読する。ハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第 2 外国語としていない学生については関連する日本語のテキストの読解。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業は対面あるいはオンラインで進める。

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

サブテキストとして、戸島貴代志『ほんとうのことば』東北大学出版会、2021

1 0. 授業時間外学習：テキストを読み、授業に備える。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅱ／ Ethics (Advanced Seminar II)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM23406, **科目ナンバリング：**LIH-PHI625J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：1) ハイデガーの『存在と時間』の「序論」を精読する。ハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第2外国語としていない学生については関連する日本語のテキストの読解。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業は対面あるいはリアルタイム・オンラインで進める。

- | | | |
|-----|-------------|----|
| 1. | 「現象学」と「存在論」 | 1 |
| 2. | 「現象学」と「存在論」 | 2 |
| 3. | 「現象学」と「存在論」 | 3 |
| 4. | 「現象学」と「存在論」 | 4 |
| 5. | 「現象学」と「存在論」 | 5 |
| 6. | 「現象学」と「存在論」 | 6 |
| 7. | 「現象学」と「存在論」 | 7 |
| 8. | 「現象学」と「存在論」 | 8 |
| 9. | 「現象学」と「存在論」 | 9 |
| 10. | 「現象学」と「存在論」 | 10 |
| 11. | 「現象学」と「存在論」 | 11 |
| 12. | 「現象学」と「存在論」 | 12 |
| 13. | 「現象学」と「存在論」 | 13 |
| 14. | 「現象学」と「存在論」 | 14 |
| 15. | 「現象学」と「存在論」 | 15 |

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

サブテキストとして、戸島貴代志『ほんとうのことば』東北大学出版会、2021

10. 授業時間外学習：テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅲ／ Ethics (Advanced Seminar III)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 **単位数：**2

担当教員：村山 達也

コード：LM13208, **科目ナンバリング：**LIH-PHI626J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：愛と道徳（倫理学原典講読・フランス語）

2. Course Title (授業題目)：Love and Morality: Reading Texts of Ethics in French

3. 授業の目的と概要： モニク・カント＝スペルベルの小文「愛」を読みます。

カント＝スペルベルはフランスを代表する古典学者、倫理学者の一人です（「その他」の欄に紹介ページのアドレスを載せました）。彼女が総責任者として編んだ『倫理学・道徳哲学辞典』の中に、彼女自身が執筆した「愛(Amour)」という項目があり、愛と道徳との関係が論じられています。ここで読むのはその前半で、エロス、フィリア、アガペーという三種類の愛の相違について説明した箇所です。愛は現代の英語圏でも人気の主題ですが、彼女は古典学者らしく、またフランスの倫理学者らしく、倫理学史をふんだんに参照しながらこの主題にアプローチします。現代主流のアプローチを相対化する意味でも興味深い論じ方です。この演習では、フランス語や倫理学史の知識も適宜補いながら、フランス語を日本語に直し、議論していきます。

各回とも訳文作成のためのヒントを事前に配布しますし、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。フランス語が初めてでも大丈夫ですが、初級文法を並行して自習していただく必要があります。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course we read Monique Canto-Sperber's essay 'Love', an article of Dictionnaire d'éthique et de philosophie morale edited by Canto-Sperber herself. The key themes covered are: meaning of life, happiness, and morality.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

愛と道徳という主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください（フランス語初級者の場合は一部でも大丈夫です）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

モニク・カント＝スペルベルの紹介文

英語：https://en.wikipedia.org/wiki/Monique_Canto-Sperber

フランス語：<https://web.archive.org/web/20110722152832/http://canto-sperber.fr/>

科目名：倫理学研究演習Ⅳ／ Ethics (Advanced Seminar IV)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM23208, 科目ナンバリング：LIH-PHI627J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人間の生の意味（倫理学原典講読・フランス語）

2. Course Title (授業題目) : Meaning of Life: Reading Texts of Ethics in French

3. 授業の目的と概要： モニク・カント＝スペルベルのエッセイ「人間の生」を読みます。

カント＝スペルベルはフランスを代表する古典学者、倫理学者の一人です（「その他」の欄に紹介ページのアドレスを載せました）。彼女が総責任者として編んだ『倫理学・道徳哲学辞典』の中に、彼女自身が執筆した「人間の生(Vie humaine)」という項目があり、ここで読むのはそれです。主に論じられるのは「人生の意味」です。現代の英語圏でも人気の主題ですが、彼女は古典学者らしく、またフランスの倫理学者らしく、古代ギリシアやカミュを参照しながらこの主題にアプローチします。現代主流のアプローチを相対化する意味でも興味深い論じ方です。この演習では、フランス語や倫理学史の知識も適宜補いながら、フランス語を日本語に直し、議論していきます。

各回とも訳文作成のためのヒントを事前に配布しますし、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。フランス語が初めてでも大丈夫ですが、初級文法を並行して自習していただく必要があります。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course we read Monique Canto-Sperber's essay 'Vie humaine', an article of Dictionnaire d'éthique et de philosophie morale edited by Canto-Sperber herself. The key themes covered are: meaning of life, happiness, and morality.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
生の意味という主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください（フランス語初級者の場合は一部でも大丈夫です）。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

モニク・カント＝スペルベルの紹介文

英語：https://en.wikipedia.org/wiki/Monique_Canto-Sperber

フランス語：<https://web.archive.org/web/20110722152832/http://canto-sperber.fr/>

科目名：倫理学研究演習Ⅴ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅴ)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM15207, 科目ナンバリング：LIH-PHI628J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：幸福をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：Problems of Happiness/Well-Being

3. 授業の目的と概要： 「幸福は快楽に尽きるのか」「幸福と私らしさとはどのような関係にあるのか」「道徳と幸福はどう関係しているのか」といった問題、まとめて言えば、幸福（福利）をめぐる倫理学的問題について考えます。

担当者によるテキスト内容の報告をもとにした議論を何回か続けたのち、五月半ば頃に四〇〇〇字程度のレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に（参加人数を勘案しながら）予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course will consider issues surrounding happiness (well-being). After reading some introductory texts, students are to submit essays on these issues. The classes of the last half of the semester will be devoted to presentations by students and general discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。

(2) 倫理学的問題についてテキストをもとに自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。

(3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This class aims to improve students' ability to read academic papers and pose relevant questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入&テキストの配布

第二回：倫理学の入門書の読解（1）

第三回：倫理学の入門書の読解（2）

第四回：倫理学の入門書の読解（3）

第五回：倫理学の論文の読解（1）

第六回：倫理学の論文の読解（2）

第七回：倫理学の論文の読解（3）

第八回：担当者によるレポート発表と議論（以下同様）

8. 成績評価方法：

演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

以下は基本テキストですので購入してください。

・森村進『幸福とは何か 思考実験で学ぶ倫理学入門』（ちくまプリマー新書）

それ以外のテキストについてはすべてプリントで配布します。予定テキストは以下の通り。

・成田和信『幸福をめぐる哲学：「大切に思う」ことへと向かって』

・ロザリンド・ハーストハウス『徳倫理学について』

・ジュリア・アナス『徳は知なり：幸福に生きるための倫理学』

10. 授業時間外学習：対象となるテキストを事前によく読み、不明点、疑問点、反論などを考えておくこと（最初は上手くできなくても構わない。不明点や反論などを提示できるようになることも、この演習の目的の一つである）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし、履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくことになります。初回に相談してください。

科目名：倫理学研究演習Ⅵ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅵ)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM25208, 科目ナンバリング：LIH-PHI629J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：価値認識と決断とをめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：Value-Perception and Decision-Making

3. 授業の目的と概要： 価値認識と決断との関係を論じた文献を読み、その内容について議論します。それを踏まえて全員にレポートを書いてもらい、後半は発表演習とします。メインテキストは L. A. ポール（ローリー・アン・ポール）『今夜ヴァンパイアになる前に：分析的実存哲学入門』です。

私たちの通常の決断（意思決定）は、ある一定の価値観のもと、いくつかの選択肢のうちのどれが最も好ましいかという観点からなされます。しかし人生には、ときとして、「それを選んだら私たちの価値観そのものが変化するであろう選択肢」が現れます。学部を選ぶ、学科を選ぶ、恋人を選ぶ、子をもつ、職種を選ぶ、などです。この場合、選択をする前の時点では、その選択肢を選んだ後にその状態をどう感じるかは分かりません。このようなとき、合理的な選択は可能なのだろうか。——という問題を論じたのが上記の本で、原題は Transformative Experience（変容的経験）です。

明晰に書かれているのですが、繰り返しが多く、具体例も豊富なので、スマートな要約を作るのが結構難しいです。その意味では、要約作りの上級編としてもよい題材になるでしょう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on philosophy of value-perception and decision-making. After reading some excerpts from L. A. Paul's Transformative Experience, students are to submit essays on these issues. The classes of the last half of the semester will be devoted to presentations by students and general discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。

(2) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This class aims to improve students' ability to read academic papers and pose relevant questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回以降：発表と議論

8. 成績評価方法：

演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

L. A. ポール『今夜ヴァンパイアになる前に：分析的実存哲学入門』（名古屋大学出版会）

10. 授業時間外学習：対象となるテキストを事前によく読み、不明点、疑問点、反論などを考えておくこと（最初は上手くできなくても構わない。不明点や反論などを提示できるようになることも、この演習の目的の一つである）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし